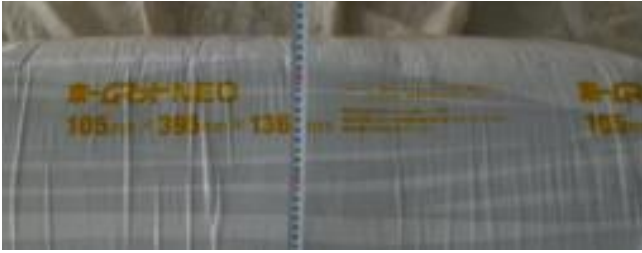


ロックウール (繊維系断熱材)

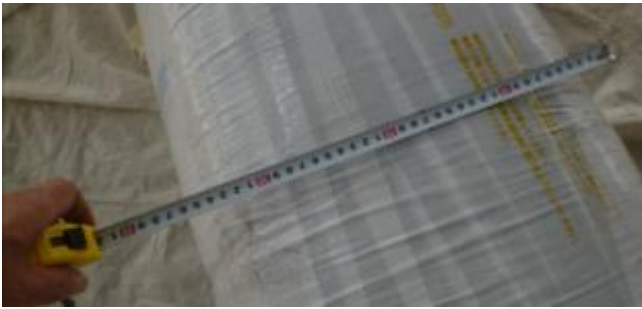
15-12-I

断熱材として今までも一番ポピュラーなのがグラスウールで次がロックウールです。



この度ある現場で防火区画の充填用としてロックウールを使う機会がありました。

ロックウール材規格は 105D×395W×1360L で写真のように 10 枚入りが 1 梱包で注文となります。



写真のように 105 ミリが 10 束で本来 1 m 以上の厚さがなんと 350 ミリ程度に圧縮されています。グラスウールも同様に 10K/m<sup>3</sup> の 50 ミリ厚、435×1370L で 1 梱包が 27 枚入り、建築現場に山積されていますが、かなりの重量で運搬移動も大変です。



梱包から取り出して折版屋根の山型に合わせ 2 廻り程度大きくカットして準備しました。

しばらく時間をおいても規格の厚み 105 ミリとは程遠く 60～70 ミリ程度でしょうか。本来動かない空気層をどれだけ厚み確保するかで断熱性能が決まるはずですが、これでは 30～40% 程度能力が落ちる事になります。



結果 2 枚重ねにして必要ヶ所に充填しました。

防火的にはロックウール (岩綿) が廉価で現在これに勝るものはありません、10 年前まではアスベスト (石綿) が盛んに使われていたことが恐ろしい夢のような話ですね。



ロックウール充填後は 100 倍発砲のアイシネンで完璧に吹付け、断熱と雨音などの防音効果もバッチリ、折版特有な急激な温度変化で伸縮時に起きる軋み音も解消されます。通常結露防止のペフ材を貼ることが多く、不燃仕様もありますが長い年月で剥がれるリスクがあります、リスクが少ないアイシネンが一番です。

この記事に関するお問合せは、次のところまで(有)生環システム 森本まで Email: info@seikan-s.jp

生環システム Web サイト <http://www.seikan-s.jp> 生環新書 <http://www.seikan-s.jp/ebook/>